



報道関係者各位

株式会社コンピュータ・ニュース社
〒113-0033 東京都文京区本郷 3-25-1
TEL 03-3818-2661 FAX 03-3818-3006

本件に関するお問い合わせは下記にお願いします。

<http://computernews.com/marketview>

iモードの利用方法調査 電子メール、インターネット利用が主流に

コンピュータの週刊専門紙である「BCN」(BUSINESSコンピュータニュース)を発行する株式会社コンピュータ・ニュース社は、東名阪のパソコン大手販売会社9社(エイデン、グッドウィル、コンプ100満ポルト、コンプマート、CSKエレクトロニクス=T・ZONE、スタンバイ、ソフマップ、九十九電機、ニノミヤ=50音順)316店舗の日次販売データをデイリーで収集し配信するBCNランキング(システム名:BCN Market View)を公表しています。このデータをもとに、BCNの市場調査部門であるBCN総研ではPCリテール市場の動向分析を行っています。

株式会社コンピュータ・ニュース社(本社:東京都文京区、代表取締役社長 奥田喜久男)の市場調査部門であるBCN総研は、iモードサービスに対応した携帯電話(以下iモード)ユーザーを対象にアンケート調査を行なった。その結果、最も頻度が高い利用方法は電子メールであることが明らかとなっている。通話以外の用途である、電子メール、ホームページ閲覧等を合計すると60%以上となり、通話以外の用途がiモード利用の主流となりつつある傾向がうかがえる。

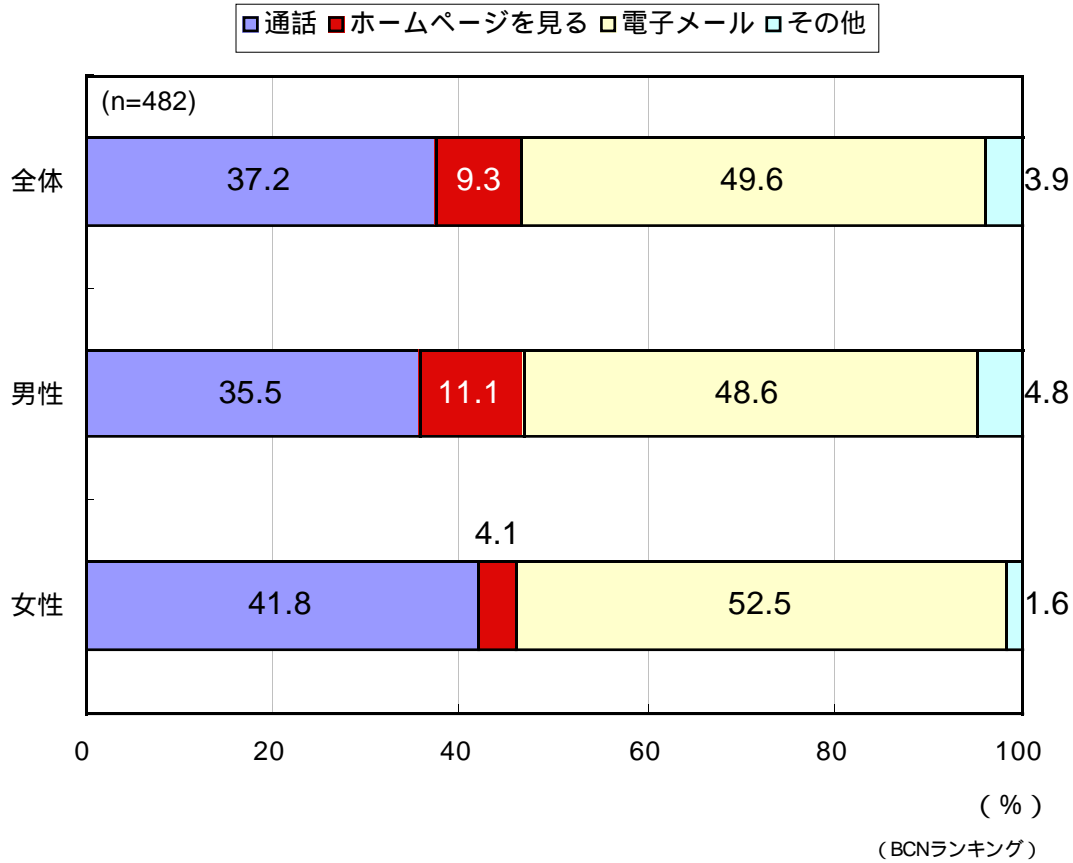
携帯電話はすでに、誰かと話をするための道具である、と言い切ることはできなくなっているようだ。国内で1460万人以上の契約数を持つiモードのユーザーのみを対象に行なった調査結果によると、最も頻度の高いiモードの利用方法は、「電子メール」(49.6%)であり、「通話」と回答したのは37.2%にとどまっている(図)。そして、「ホームページ」9.3%、「その他」(ゲームと答えた回答者が多かった)が3.9%である。つまり、60%以上の回答者が、通話以外の用途をiモードの一般的な利用方法としている、という傾向が明らかになる。男女別にみても、通話より電子メールを重視するという、全体と同様の傾向を示している。なお、女性の方が男性よりも、通話(41.8%)や「電子メール」(52.5%)といったコミュニケーションでの利用方法が高い比率を占めている。

携帯電話は進化を続けている。その進化の過程はPCと似ている部分がある。いずれもネットワークに接続されることで、多種多様なサービスが爆発的に生み出され、サービスの質を向上させるために、ハード面、ソフト面、インフラ面の強化が加速されるという循環を辿っている。

PCには携帯電話にはできない複雑な演算処理が可能であり、携帯電話にはPCには実現できない軽快なモバイル性能を有する。両者の間で重複するのは、電子メールやホームページの閲覧など、ネットワークを介したサービスだ。この面で明確なすみわけを図れるようになれば、両市場はさらに大きく拡大していくと考えられる。



図 iモードの最も頻度が高い利用方法



[回答者のプロフィール]

- 「調査期間」 / 10月30日～11月12日
- 「調査方法」 / ホームページ「WebBCN」上でのアンケート
- 「有効回答数」 / 482人
- 「性別」 / 男性70.8% 女性29.2%
- 「年齢」 / 20歳未満2.9%
 - 20歳以上30歳未満25.5%
 - 30歳以上40歳未満42.3%
 - 40歳以上50歳未満2.2%
 - 50歳以上6.1%
- 「職業」 / 営業、販売、サービス11.1%
 - 事務、企画、調査23.4%
 - 技術、研究21.3%
 - SE、プログラマー7.0%
 - 教員、講師2.8%
 - 医師、弁護士0.6%
 - 会社役員0.9%
 - 自営業、自由業7.9%
 - 専業主婦8.5%
 - 学生7.7%
 - 無職2.6%
 - その他6.2%